

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401426		
法人名	有限会社 気楽		
事業所名	グループホーム ポテトの丘		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙3501番地3		
自己評価作成日	令和3年8月13日	外部評価結果確定日	令和3年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつ不安を取り除きながら気持ちよかに過ごして頂くように心がけている。家族様が此処に入所させて良かったと思ってくさるよう努める。色々な認知症の症状を理解しながら支援していく。看取りをするうえで人間として誇りを持ち自分らしく、又家族様の気持ちを汲み取りながら最終を迎えて頂くように努める。地域の方が何時でも相談しやすい雰囲気作りをしていく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4271401426-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年9月28日		

目の前におだやかで美しい橘湾が見渡せる場所にあり、建物すぐ横の自家菜園や軒先のある柿など今までの自宅でのふだんの風景と変わらない環境がある。「気持ち、穏やかに楽しく過ごしましょう。」の理念の支援を、入居者は、日常生活そして看取りのときまで受けることができる。認知症やそれにまつわる病気・症状についても、理解し入居者に寄り添った支援に繋がるよう、研修等取り組んでいる。ポテトの丘に寄せられる問い合わせにも丁寧相談にのり、対応策を紹介するなど、代表者・スタッフはグループホームの社会的役割を認識し、広く必要とされる活動を積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は頭の中にはあるが、日々の実践の中では忘れがちになるときもある。入居者に寄り添い笑顔がみられるように心がけている。	「気持ち、穏やかに楽しく過ごしましょう。」という理念は、ミーティング等によりスタッフ間で再確認されている。入居者はゆっくりと自分のペースで暮らしており、飲むのが苦手な入居者にはお茶のゼリーを作るなどその人に合った支援が工夫されている。スタッフ間の和気あいあいとした雰囲気の中から理念は自然と浸透されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会等には参加していたが、コロナ禍で実施出来ていない。清掃活動参加している。	自治会に加入しており、スタッフが地域の年1回の清掃活動などを通して地域の方との親交を深めている。以前は老人会行事の敬老会に、入居者が踊りなどに参加していた。また、代表者が地域の方より、他のデイサービスに通所している家族が行きたがらずに困っているとの話を聞き、ポテトの丘での行事に誘ったりお弁当を届けて喜ばれるなど、日ごろから地域の方の困りごとに寄り添い支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域会合では発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までは定期的に年6回の会議を行っていたが、コロナ禍で文章の開催にしている。	定期的に年6回の開催をしていたが、コロナ禍の影響により、現在書面会議となっている。書面会議においては月に1回の開催としている。近隣自治会・老人会の会長が8名参加するなど、地域とのつながりは深い。年に1度、家族の了承を得て入居者についての情報を伝えている。地域の方へ開かれたグループホームであることで、災害時他地域の協力を得られることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば市担当者に連絡を取り、出向くようにしている。協力関係は築けているように思う。	運営推進会議のあり、介護保険制度についての勉強会の講師を、会議に参加して下っていた地域包括支援センターの方をお願いし、実施するなど関係を強める努力をしている。折に触れ、市担当窓口に出向き、直接コミュニケーションを取りながら、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は出来るだけしないようにしているが、利用者の混乱を少なくする為に、玄関その他の出入り口に施錠をしている。	以前は日中の玄関の施錠はしていなかったが、現在、ひとりで外に出ようとされる方がいるため、今はやむを得ず安全対策を取っている。玄関は施錠しないままで、玄関に胸の高さまでの開閉可能な木の柵が設置されているが、温かみのある白い木の柵で、抑圧感のないよう工夫されている。一人で出ていく気配を見落とさないようスタッフ同士の見守りや連携プレーがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	時折、虐待に当たらないか話し合いをしている。言葉の虐待にならないように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用された方もおりホーム内で研修をしたこともある。研修があれば参加させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をおこない理解・納得をした上で入居して頂いている。改定がある時は、文章を送り承諾を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に要望を聞いているが言われたい事が多い。家族からの要望はスタッフで共有し、話し合いを行い今後のケアに役立つようにしている。	ご家族様の意見や要望を聞けるよう改善策として、半年に1度サービス担当者会議として場を設けていたが、コロナ禍の影響を受けやむなく中断している。ふだんの支援の中で入居者に聞く、本人に選んでもらうなど、思いを汲み取る姿勢が職員の中に定着している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞き、ケアや働きやすい環境を整えている。	代表者・管理者とスタッフの面談は年に1度実施されている。日常的にミーティング等で意見や提案を聞いており、入居者のための購入提案については、ほぼ採用されるとのこと。管理者の人柄もあり、職場の風通しのよさを感じられ、スタッフからは積極的な意見が発信されている様子が見受けられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人に合わせ、働きやすい環境を整えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はコロナ禍で中止されているが、管理者はリモートで研修を受けた後、資料を渡し報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナ禍で中止されているが、管理者がリモート会議に参加し大事なことは報告している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら少しずつ信頼関係を築き、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と話し合いをする中から情報を得ている。家族やその他関係者からの情報が不足がちな時がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報の中から何を必要としているかを見極め対応に努めている。生活を共にする中で、まだ自宅で生活ができるのではと、家族に提案をしたり他のサービスもあることを伝えたりすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と同じ目線になり相談事をしてみたり、良い関係を築くようにしている。一方的になりがちであるが共に作業をする事で、感謝の言葉を伝え関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日常の様子を伝えている。話の中に家族の事を交えて、思い出させるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会も制限しており外出も出来ない状態である。話の中に時折、触れるようにしている。	コロナ禍の影響を受けているが、玄関で建物の内と外で距離を充分保ちながら家族と面会してもらうなど、継続的なつながりが途切れないようにしている。コロナによる行動制限を受ける前は入居者の希望で他県に車で外出したり、散歩に付き合い隣町まで歩くなど本人の気持ちに寄り添った支援をしていたとのこと。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が心地よく過ごせるようにフォローしながら、関わっていけるように心がけ支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も訪ねてこられる方もおり、関係性を大切にしている。相談があつた場合は対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の暮らし方を聞き入れ、状態を共有し本人の気持ちを一番に考え、何が必要か常に検討しながらケア出来るようにしている。	支援の際には入居者と目線の高さを合わせたり、耳が遠い方には紙に書いて伝えたりして思いを汲み取れるよう工夫している。また、本人や家族から意向の把握が難しい場合、本人本位に検討し介護計画を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介先・家族からの情報を元にケアの統一をはかるように努めているが、情報が少なく把握するまでに時間を要するにこともある。生活歴が分からない方も多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態把握に努め、気持ちよく過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き取り、スタッフで意見を出し合い介護計画を作成している。	介護計画は4ヵ月毎に見直しをしており、担当会議では管理者、担当スタッフ、看護師、ケアマネが必ず参加し内容の検討を行っている。担当者は輪番制で見直し毎に入れ替わるのでスタッフは入居者全体の情報を偏りなく共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、スタッフ同士で共有出来るようにしている。振り返りケアの見直しが出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期入所の方はマンネリ化している事もあがるが、何か状態や状況の変化に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状態に合わせ可能な限り支援しているが、今のところおられない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診して頂いており、体調の変化がある時は相談をし指示を仰いでいる。かかりつけ医との関係は良い。	かかりつけ医については入所時にご家族様へ説明し、これまでの病院の継続か連携している病院への変更か希望を聞いており、継続する場合はご家族様に通院をお願いしている。連携している医院は2週間に1回往診に来ており、また毎週月曜には訪問看護師が健康チェックを行っている。連携している医院が看取りや夜間・休日の緊急時対応にも協力的で普段から密に連絡をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化を見逃さない様、報告・連絡・相談等おこない、訪問看護師当看護師の連携も取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は相談員や家族と連絡を取りあいながら、早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いを積み重ねて行く事で良い関係を作り、スタッフは家族の気持ちも汲み取りながら取り組んでいる。	ポテトの丘の方針として設立時から看取りを行っており、これまでの看取り対応は20件にのぼる。入所時と重度化の際にご家族様へ看取りについての説明と意向確認を行っている。特にご家族間の意見の相違ができるだけ解消されるよう、よく話し合いをして、ご家族様が十分納得できる看取りを大事にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部・外部で研修は受けているが、コロナ禍で出来ていない。急変時に対応出来るか不安ではあるが繰り返し行う事で忘れていた事等を復習し身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ禍で消防署との訓練は実施していないが自主避難訓練を定期的に行っており、注意点・反省点等話し合い全員が見に付けるようにしている。火災等起きないように心がけている。	立地条件として考えられる災害は地震と台風が主であるので、災害時の停電対策として自家発電装置を設置している。避難訓練は誰でも夜間想定で対応できるよう、1日に2回夜間想定避難訓練を実施するなどしてスタッフまんべんなく訓練している。また、備蓄は常に7日間程度の食料や簡易トイレ等を備えている。防災計画は長崎県のBCP書式に沿って作成している。	消防計画の最後の提出が平成19年となっているので、内容を見直し、現状に沿った内容のものを提出することが望ましい。また、火災時の避難マニュアルを作り、そのマニュアルのもと避難訓練を行いスタッフに周知することで、手順を浸透させることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	表情・行動・仕草等を見ながら、一人一人に合わせた声掛けをするように心がけている。方言等は利用している。	日々の入居者の様子から本人に合った言葉かけを心掛けており、入居者の希望を汲み取って方言を使ったり相手への接し方を変えるなどの工夫をしている。スタッフは全員、自己評価シートにより利用者への対応を含めた支援のあり方を年に1度振り返りを行っており、定期的に客観的な確認がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、どの様に思っているか感じ取り自己決定が出来るように努めている。意思に沿うように心がけているが出来る事も限られて来るので難しい面もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のリズムはほぼ決まっているが、出来るだけ本人の意思に合わせて支援出来る様に心掛けている。職員の都合に合わせている方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一般的な身だしなみには心がけている。散髪は定期的に行っている。季節に合わない服を着る方はその時に応じて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は好きな物・季節の行事には、その食事を提供し、四季折々の食材を取り入れ季節感味わってもらっている。個々の食事形態に合わせて配慮している。	調理はポテトの丘の調理場でスタッフがやっている。献立はその日の冷蔵庫にあるものからスタッフが考えている。七草がゆや栗ご飯、ひなまつりの桃カステラなど季節の行事食のほか、敷地内で自家栽培している野菜など旬の食材を取り入れたメニューとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に合わせた食事形態をしている。水分量が難しい方もいるが何度も促している。偏食の方もおり食事量の難しい方もいる。栄養の摂れていない方にはエンシュアを飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声掛けして、して頂いているが不十分な所は介助している。拒否する方は義歯は洗浄する等して対応している。。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせ支援している。日中はトイレ誘導をしている。尿意が無い方も時間を見て誘導している。	個人別に6日分の排泄記録を時系列で記録した排泄チェック表にて、入居者の排泄パターンを把握している。日中はできるだけトイレで排泄支援をするよう心掛けている。誘導をする際は大きい声で言わないようにしたり、失禁した際は自然に誘導するようにしたりして入居者の自尊心に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物や食事等工夫しているが、それでも難しい方は薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はだいたい決めてはいるが、本人の体調や気持ちを大事にして入浴してもらうようにしており、湯の温度等は、それぞれの好みに合わせてゆっくりと入ってもらっている。嫌いな方は気持ちよく入ってもらう声掛けを心がけている。	お風呂は毎日沸かしており、入居者は3日に1日のローテーションで入浴している。また、菖蒲湯やゆず湯など季節を感じる入浴の工夫もしている。以前より機械浴を導入して現在は入居者全員が利用しており、スタッフと入居者の負担軽減になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は状態に応じ休む方もいる。夜間はそれぞれのリズムに合わせて居室の温度・明るさを調整して、安眠してもらえるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大まかな作用等、一目で分かるようにボードを作っている。薬の数・個々の名前・顔を確認して服薬している。誤薬がないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のやりたい事を聞くようにしているが、何をしたいのか分からないのが現状である。その人に合った作業を一緒にする事で、気分転換を図ってもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見や天気の良い日はテラスや庭でおやつを提供する等支援している。コロナ禍で面会は短時間でパーテーションを置いてしてもらっている。	春や秋の気候の良い時期に外気浴を行ったり、洗濯物の取り込みなどで日常的に外の空気に触れている。また、毎年4月の花見や蓮の花見学、10月のドライブなどで外出している。新型コロナの流行前は誕生日に本人と仲の良い入居者も連れて一緒に外食していたとのこと。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を取られたとゆう方が複数おられた為、今は所持していない。1人はおもちゃのお金を持ち安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は、電話をして対応している。職員が家族に成り代わり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は花や壁飾り等で季節感を工夫している。共用の場所は入居者の状態に応じている。コロナ感染の為、こまめな換気も心がけている。	居間のピアノの上に二酸化炭素濃度計を設置しており、基準値を超えると換気するようにしている。共用空間の掃除は毎日、掃除機かけと土曜日に拭き掃除を行っている。共用空間は廊下や玄関にボランティアが手作りした飾りや案内板が様々に設置されており、手作りの温かみのある雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう居場所の工夫には心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状は衣類のみの方が多い。日数を重ねるにつれ家族の写真や製作物を飾り、落ち着いて生活できている。	居室は火木土日の週4回行っており、清潔に保たれている。エアコンが苦手な方のために各居室に扇風機を設置している。また、就寝時にドアの隙間が気になってしまう入居者のためにドアの隙間を無くす工事をするなど必要に応じて入居者にとって居心地の良い環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が遅れるように、居室から共用スペース・トイレ等、入居者が通る場所は、危ない所がないか気掛けている。出来る事をしてもらっていても混乱に繋がる時もある。		